

第 6 期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第 6 期宇治市生涯学習審議会 委嘱状交付式及び第 1 回審議会				
日 時	平成 25 年 6 月 3 日 ( 月 ) 午後 2 時 ~ 4 時				
場 所	生涯学習センター 1 階 第 2 ホール				
出席者	委 員	○ 奥西 隆三	○ 向山 ひろ子	○ 清水 桂子	
		○ 門脇 洋子	○ 弓指 義弘	○ 六嶋 由美子	
		○ 迫 きよみ	○ 石田 光春	○ 木村 孝	
		○ 杉本 厚夫	○ 桑原 千幸	○ 長積 仁	
		○ 森川 知史	○ 小宮山 恭子	○ 西山 正一	
	事 務 局	○ 藤原 千鶴 ( 教育部次長 ( 兼 ) 生涯学習課長 ( 兼 ) 生涯学習センター所長 )			
		○ 山下 一也 ( 教育改革推進室長 )			
		○ 安達 昌子 ( 生涯学習課主幹 ( 兼 ) 生涯学習センター主幹 )			
		○ 川瀬 章治 ( 生涯学習課主幹 )			
		○ 西村 比口支 ( 生涯学習課生涯スポーツ係長 )			
		○ 北池 顕子 ( 生涯学習課事業係長 ( 兼 ) 生涯学習センター主査 )			
		○ 前田 紘子 ( 生涯学習課生涯学習係長 )			
		○ 粕谷 祐次 ( 生涯学習課生涯学習係主任 )			
○ 西田 知世 ( 生涯学習課生涯学習係主事 )					
委嘱状交付	西野 正博 ( 宇治市教育委員長 )				
傍聴者	0 名				

会議要旨は、下記のとおりである。

委嘱状交付式

1 . 委嘱状交付

西野委員長から、委員に委嘱状が交付された。

2 . 宇治市教育委員会委員長 挨拶

3 . 委員、事務局職員紹介

第 1 回審議会

1 . 宇治市教育委員会の体制について

( 事務局 )

平成 2 5 年度宇治市教育委員会組織図について、青少年課と青少年指導センターが教育改革推進室長の下に移った。小中一貫教育課内に企画調整係が新設された。

## 2. 宇治市生涯学習審議会の概要について

宇治市生涯学習審議会は、市民の生涯学習の振興を図ることを目的として、平成 15 年に設置された。平成 17 年には、総合的な調査・審議機関として拡充するため、図書館協議会とスポーツ振興審議会の機能を含めて再編された。

上位法である社会教育法に基づき、8 名の方に社会教育委員を兼務していただく。任期は同じである。

## 3. 委員長選出、委員長職務代理指名及びその他の委員への就任について

宇治市生涯学習審議会条例第 5 条の 2 の規定により、森川委員が委員長に選出された。

また、宇治市生涯学習審議会条例第 5 条の 4 の規定により、森川委員長が、門脇委員を委員長職務代理に指名した。

宇治市生涯学習審議会条例第 9 条により、市の各種審議会等の委員の就任について、以下の通り確認を得た。

- スポーツ振興部会委員： 杉本委員、清水委員、木村委員、西山委員
- 宇治市ジュニア文化賞等選考委員会委員： 森川委員長、六嶋委員
- 第 1 2 期紫式部文学賞イベント実行委員会委員： 森川委員長
- 宇治市明るい選挙推進協議会委員： 門脇委員、西山委員

## 4. 審議会等の会議の公開について

事務局から、審議会等の会議の公開について説明した。

委員長が当審議会の公開について提案した結果、第 1 回審議会から公開することが決定した。

## 5. 報告事項

### 第 5 期宇治市生涯学習審議会報告書について

(委員長)

第 5 期審議会後半に市内の各施設を視察し、『生涯学習の場としての社会教育施設等について』というテーマで報告書をまとめた。報告書は、平成 25 年 5 月 27 日(月)に委員長から教育長に提出した。

## 6. 協議事項

- 山城地方社会教育委員等連絡協議会理事の選出について

(事務局)

山城地方社会教育委員連絡協議会に代表を選出している。宇治市は森川委員長と杉本委員の 2 名に代表をお願いしたいと考えている。

(委員)

本来はひとり選出だが、宇治市は規模が大きくふたり選出している。元は公民館運営審議会からひとり選出していたが、後に宇治市生涯学習審議会に統合再編された経緯があるため、変則的になっている。ひとは副会長となり、理事がいなくなるため、もうひとり選出するのが通例となっている。なお、上位組織である京都府社会教育審議会には、府内5つのブロックからふたりずつ選出する。宇治は山城ブロックにあたる。

• 今期の審議事項について

(事務局)

生涯学習審議会は諮問機関であり、諮問があれば調査・審議し、答申する。これまで具体的な諮問はなく、現在も諮問の予定はないため、每期その時々テーマを定めて研究し、教育委員会に提言をしている。第5期の報告をどう生かしていくか、現在策定中の宇治市教育振興基本計画の関連も視野に入れて、テーマを決めていただきたい。

(委員長)

本日は今後の議題について考えていきたい。皆さんの意見を聞かせてもらいたい。

(委員)

宇治市教育振興基本計画策定委員会には、当審議会から6名の委員が出ている。生涯学習、地域連携について本市の教育をどうしていくか、今回の審議会でも議論ができればと思う。学校教育の分野では保護者対応を含め、とりわけ家庭教育について注目されている。家庭教育に関わるテーマであれば、議論したことを、学校教育に携わる立場として実務に活かせることができると思う。

(委員)

私自身は地域で学校に関わっているが、様々な困ったことに直面している。家庭教育、しつけや道徳教育について、我々の世代と今の親世代とでは、内面的な性質というか、考え方がつながっていないと思う。何かつながりがあればと最近特に思う。具体的な事例は思いつかないが全体的にそう感じる。

(委員)

私がPTAで活動していた頃から、学校と家庭と地域の関わりについて課題は山積みである。今は保護司として関わっているが、家庭の教育力の低下は歴然としている。地域の大人たちが地域住民としてどのように子どもと関わるか、地域住民の質の向上が必要だと思う。また、放課後に子どもの居場所がないと思う。学童保育は3年生までなので、高学年はどう過ごしているのか。学校を使ってどう地域と関わ

っていくかが重要だと思う。

(委員)

家庭教育支援という言葉があり、過去の審議会で「家族」、「地域」、「親教育」とテーマが出ていたが、このあたりをもう一度洗い直して考えていきたいと思う。これまでのテーマの中にスポーツがなく、今期の委員にはスポーツ関連で活躍している方も多いので、フレッシュな意見、活発な議論ができると思う。スポーツは桜宮高校の体罰事件以来注目されており、家庭教育と学校教育を結びつける接点である。スポーツをテーマとし、学校と地域を結び付けるスポーツのあり方を考えるのは面白いと思う。

(委員)

中学や高校で問題が起こった時、その生徒は小学校、幼稚園、赤ちゃんの時に遡ってどうだったかと注目される。赤ちゃんのあやし方、呼びかけ方がわからない、ぎごちない母親がいる。ガラスを扱うように赤ちゃんを育てている母親がいるが、それでは体力もつかないし、運動する体にならないと思う。今小中学校で起きている問題の多くは、その要因を生徒たちの赤ちゃんの時にまで遡ることができると思うので、地域の人も赤ちゃんの育て方に目を向けてほしい。スポーツについて、小さい時から体を動かすことを覚えていけば良いと思う。議論を深めることでこれらの問題解決の一助になればと思う。

(委員)

東日本大震災の時に「絆」という言葉をよく聞いたが、あまり使われなくなったなと思った矢先に昨年の京都府南部地域豪雨災害があった。再度絆について認識する契機となった。絆というものは学校を思う心、学校と地域との絆をも表していると思う。本市でも約十年前に宇治小学校児童傷害事件があった。地域をまとめ、そこに住む人の十分な教育の環境を整えるためにも、今一度絆を見直してみるのはいかがでしょうか。

(委員)

家庭教育支援、サークル・ボランティア活動をずっとしてきた世代と、新しい世代とのつながりを作り、世代間のギャップを埋めるためには、スポーツがひとつの手段になるのではないかと思う。

(委員)

私は子どもが私立の学校に通っていたので、その頃は地域のことわからなかった。災害時などいざというときに地域の中での助け合いが必要だと思う。宇治は地域のこと熱心な人が多いが、子どもと地域のつながりが重要だ。例えば地域でス

スポーツをやってみるとか、少しでもそういう活動の手伝いができるよう議論ができればと思う。

(委員)

生涯スポーツに関するテーマのうち、増えている高齢者をスポーツもしくはレクリエーションに受け入れることが必要だと思う。何十年と続く競技団体がある中で、高齢者にもやさしいスポーツ、例えばソフトバレー等を取り入れることを考えていければと思う。

(委員)

私は文化系だが、「つながり」「まじわり」が、キーワードになると思う。文化とスポーツは二本柱のようにになっているが交われないものだという認識がある。これらを融合させる手立てがあればと思う。あまりにもふたつが離れすぎているので、団体によっては対立関係のようにになっている部分もある。文化とスポーツはいずれも大事なものなので融合できればと思う。

(委員)

おっしゃる通りだと思う。これは学校教育が文化部と運動部という分け方をしてしまったことに原因があると思う。私はあえて「スポーツ文化」という言葉を使った。これらは分ける必要はないものだ。元々スポーツは生活を豊かにするためのもので、オリンピックも万博という文化的な展示の中で、その身体的な表現として、万博の添え物のようにして始まった。

(委員)

私は長年剣道で子どもを指導してきた。剣道の理念は修練による人間形成であり、剣道を通して子どもが成長できればと思っている。毎年子どもを連れてくる親の中に、礼儀作法を教えてほしいと言う人がいる。これは本来親がすることだ。最近親がずいぶん変わってきていると思う。昔は忙しいということもあって子どもは預けっぱなしだったが、今は車で送り迎えをしている親が多い。稽古の様子も見ていて、中には指導に口出しをしてくることもある。「今の親は…」と嘆くこともあるが、その世代を育てたのは我々の世代であり、何が間違っていたのかなと考えている。私は逆に文化系はあまりわからないのでスポーツ関係である方が議論できると思う。

(委員)

宇治市教育振興基本計画の最重要課題に資する話題にするのが第一だと思うがそこにとらわれする必要はないと思う。

高齢者、子育て、見守り、防犯、安全で安心なまちづくり、など今我々が関わっている様々な問題を総合すると「ソーシャルキャピタル(\*)」という言葉がキーワ

ードになる。私は新任委員なので、第 4 期生涯学習審議会のテーマ「人と人のつながりと地域社会」でどういう話をされたのかわからないが、これをテーマに絆、ネットワーク、信頼の創造について議論できると思う。

個人的な関心としては、生涯学習が主体者中心になりすぎているのではないかということ。学習者が主体となって行動できるよう、意欲喚起させることが必要だと思う。みなさんの意見を聞いているとソーシャルキャピタルのテーマが最適かなと思う。

\*ソーシャルキャピタル...社会関係資本。人々の協調行動が活発化することにより社会の効率性を高めることができるという考え方のもとで、社会の信頼関係、規範、ネットワークといった社会組織の重要性を説く概念。

(委員)

私は小学校区の体育振興会の役員をしている。スポーツ活動の宇治市全体の問題は参加者が少ないことと言われているが、運動会になると 1200 人ほど来る。子どもには束縛なく自由に参加できると人気がある。以前、パン食い競争は 500 名も出場してパンが足りないという事態になった。80 代の人達が来て世間話などをして同窓会みたいになっていて、それもアリだと思う。また、口は出す、金は出さない、文句は言う、という人がいる。提言は立派だが実際に汗をかかない。リーダーを育てるにも、若い人が仕事を休めない状況がある。ただ、グランドゴルフなど何かのきっかけで一回来ると毎回来る人もいる。60 人いればひとりでも次の年にも来てほしいと思う。こういったことが現状として悩みでもあり楽しみでもある。

(委員)

最近道德の授業が減っていると感じるため、家庭教育でいじめの問題など、悪いものは悪いと小さい頃から身に付けさせないといけないと思う。親や祖父母との関わりが少ないのだろうか。子育てはその時その時の教えが必要ではないかと思う。さきほども出たように礼儀作法をスポーツ指導者にお願いするなど、今の親は家庭教育に自信がないのかなと思う。我々の世代が意識してこなかったのも悪かったのかもしれない。若い親にがんばってもらわないとこれからどうなるのかと不安になる。家庭教育、道德教育の欠如という危惧がある。学校が家庭学習の指針を出しており、資料を見たことがあるが、基本的なことはやはり家庭で受け継いで身に付けさせるべきものだと思う。

(委員長)

ひととおり意見を聞かせてもらったが、食い違う意見はなく方向性ははっきりしていると思う。テーマをはっきり決める必要はあるが、これまでのテーマに関して今まで何を扱っていないのかを、事務局にまとめてもらいたい。ひととおり聞いたうえで、やはりこれだというテーマはあるか？文化とスポーツの融合の話はどこか

でしてみたいと思う。スポーツではうまくいくのにどうして文化ではうまくいかないのか、と思うことが多々ある。スポーツを通して人間の資質を育てることや、そのためには地域がどうあればいいのかを考える必要がある。

(委員)

スポーツは社会を映す鏡である。そこには映らない部分もあり、体罰の問題などが潜んでいる。うまくいっているように見えるのは、うまく隠しているともいえる。問題が出てきたということで今注目されていて、スポーツの社会的機能が見直されている。最近運動会が流行っていると聞いたが、企業では社員旅行をやめて、アンケートを取ると運動会開催が一番人気だという。また、SNS で呼びかけてグループを作って運動会を自主的にやるという動きもある。「絆」のことが震災以後言われるようになってきたが、つながりを求めて、スポーツで絆を実感する。例えばグループ競技では、苦手な人がいてもみんなで助けあうことで、そう実感できるのではないかと。同時にスポーツには体罰、いじめの温床になっているという面もある。そこから議論の切り口が広がる可能性を秘めている。ソーシャルキャピタルの話が出てきたが、スポーツはそれに関わるいい材料だと思う。

(委員長)

さきほど剣道の話が出たが、柔道はオリンピックに出て方向性が変わったとの意見がある。剣道はどうか。

(委員)

剣道でもオリンピック参加を目指す動きはあるが少数である。柔道は点取りになってしまったが本来は堂々と立ち向かって一本を取りに行くものである。オリンピックで国際的に大きくなってしまったがために、日本は一参加国でしかなくなり本家の意見も通らなくなった。武道の精神が外国の人にしっかり伝わらない。表から見える部分だけが取り込まれ、ルールがそのつど変えられ、重要なものが失われていく。剣道は見えない精神的な部分に重要性が多い。オリンピック競技になると変わってしまうだろう。今も少年剣道では、フェンシングのように突いては引くような剣道もあり、点取りが重視されれば柔道のような傾向もある。実際に人を斬った人はもういないが、昔は戦争で人を斬った経験のある人がいた。背を向けて逃げる人を後ろからは斬れなかったという話を聞いたことがある。

(委員長)

剣道には勝ち負けよりも、人を育てるという考えが中心にあると思う。今後そういう面が議論の的になればと思う。ところで剣道はガッツポーズをしてはいけないと聞いたことがあるが。

(委員)

相手がいて成り立つものなので、相手にも敬意が必要。ガッツポーズは、敗者の気持ちや人権を無視したことになり、してしまうと一本取っても取り消しになる。柔道も本来そうであった。今や日本人選手もみなガッツポーズをするが。

(委員長)

人を育てる時に何が必要なのか、社会をどういうものにするのか、という面で示唆に富む議題だと思う。スポーツの部分は注目されているのでこれを取り上げる方向で文化の話題を交えていくのがいいと思う。タイトルをどうするかなどは皆さんにも考えてもらって次回以降検討することによろしいか。他に意見等は。

(委員)

私の子どもは現在15歳と17歳で、以前はやんちゃだったがサッカーをするようになり、私も試合を見に行くようになった。指導者の中には、人として子どもに言うべきではないような、酷い言葉で怒鳴り散らすような指導者もいる。子ども達にとっては、そのサッカーチームの他にいく所がなく、選択肢がない。もしサッカーをやめれば、休日に遊びに行かせるのも原っぱ等に連れて行く必要がある。本来スポーツを通じて、何を子ども達に伝えるのかということが重要で、親がそれを考えていかななくてはならない。外で思いっきり遊ぶという選択肢も作ってあげたいが、子どもたちが自由に遊べる環境が整っているかどうか問題だと思う。

(委員)

うちの孫もラグビーをしている。元々運動音痴で、走り方も悪かった。何かをさせようと3歳頃から始めたが、まずボールから逃げる。不安に思ったが、他の親からそのうち化ける(能力が開花する)から気長に待つよう言われ続け、ふたりの孫は小学校5年生と高校2年生の時に化けた。試合を見に行ったが、体も大きくなって食も増え、子どもはやる気になれば苦手なものでも変われると思い感動した。とくにチームプレイはいいものだ。先述の悪い指導者に当たるのは、本当に運が悪かったと思う。

(委員)

うちの子はがんばって続けているが、やっぱり遊びは必要だと思う。

(委員)

スポーツではなく「遊ぶ」というと、花火をしたり単車で走りまわったりと、あまり良くない印象がある。

(委員)

京田辺市では駅前にスケートボードができる場所を作ったと聞いて感動した。そういう発想が大人には必要だと思う。遊び方も変わってきている。今は中高生が公園にいて数人で話しているだけで通報される。実際にうちの子は通報された。

(委員長)

子どもを取り囲む大人の理解があるか、地域が問題となる。環境を整えるということは議論の必要があり提案していく価値がある。環境が整っている場所がどこにあるのか、なかなかわからないと思うが。

(委員)

私は期間限定のボランティアで、清掃工場に見学に来る小学生向けのガイドをしているが、近隣市町から4年生だけが年間50校くらい来る。毎年行儀の良い学校とそうでない学校がはっきりしている。概してグラウンドが広い、のびのびできる環境が整っている、新しい学校(校舎)であることが良い影響を与えているようだ。地域の要因もあるが、先生たちが苦労しないでも子どもが育つところがある一方で、どう頑張っても難しいところがあるように思う。この格差が埋まっていけば家庭教育もうまくいくと思う。以前ある先生に「子どもをうまくあしらってくれてありがとうございます」と言われたことがある。「あしらう」という言葉にびっくりしたが、表現はともかく先生たちも疲れているのだなと思った。格差をどう埋めるか、スポーツや文化を取り入れて、議論に努めることができるかもしれない。

(委員)

地域性によって違いはあるだろうと思うが、教師の指導力が重要だと思う。

(委員)

モデル校というのがあると以前に聞いたことがあり何校か知っているが、普通の地域だがそういう小学校の子どもは礼儀等が良いと感じた。

(委員)

伝統校のことを指しているのだと思う。創立が古く、地域に根付いている。私見では小学校4年生は最も美しい年代だと思う。親や教師の言うことをずっと飲み込んでいく。思春期の少し前、幼児期から児童期への過渡期で、重要な時期である。

(委員)

(学校の違いというのは) たまたまやんちゃな子が何人いるかだと思うが。

(委員)

成長の早い子が多いと思う。4年生でも平気で大人をなめて、セクハラ発言をする子もいる。そういう時代が来ている。地域性、教師の指導力、一番は親だと思うが、それらが要因であると、この5年の経験で理解している。

(委員)

確かに4年生というと美しい面もあるかもしれないが本当に困った子もいる。

(委員)

子どもの見守り活動をしているが、遅くまで遊んでいる子を注意するのに「子盗りに取られるよ」と言うのと「それどんな鳥？取ってきて」という。「サーカスに売られるよ」というと「桃山城キャッスルランドがなくなったからサーカスは来ないよ」と返される。日没になったら帰るということを教えられていないのか、時代のギャップを感じた。我々は親からそうして諭されていたが今の子はクールというか、現実を直視しているなと思った。一方で夢がないともいえる。面白い現象だと思った。

(委員長)

次回にはテーマを決めたいと思う。次回までに考えを深めてきてもらいたい。何か意見があれば事務局に連絡していただきたい。

## 7. 今後の予定について

### ・ 今期の研究テーマについて

- ・ 報告書の詳細について。次回審議会の案内送付の際に同封できればと思う。市民アンケートの回答集計を資料として配布している。各層共通の設問もあるので目を通しておいていただきたい。

### ・ 今後の予定について

京都府社会教育委員連絡協議会総会：平成25年6月13日(木)向日市  
山城地方社会教育委員連絡協議会総会：平成25年6月21日(金)宇治田原町  
近畿地区社会教育研究大会：平成25年9月5日(木)和歌山市  
全国社会教育研究大会：平成25年10月23日(水)～25日(金)三重県伊勢市

詳細は追って知らせるので参加していただきたい。

また、6月13日の京都府社会教育委員連絡協議会総会で、向山委員が表彰を受けられることになっている。

## 第 6 期宇治市生涯学習審議会 会議録

(委員)

社会教育委員について。社会教育委員等連絡協議会から「等」という字が抜けているが、社会教育委員を兼務していない者も出席して良いのか。

(事務局)

他の市町では社会教育委員、宇治市では生涯学習審議会と称している。同格なので、構成員である生涯学習審議会委員全員に出席資格がある。

(委員)

委員名簿にある委員の肩書について、変更されたのか統一されていないようだが。

(事務局)

確認し、修正する。

### 8. その他

(事務局)

成人式実行委員の募集が始まっているので、告知させていただく。

(委員)

犬山市などでは実行委員が組織化されていて、OB が次の実行委員を育てていくなどしていると聞くが宇治ではしていないのか。

(事務局)

組織化はしていないが前年の実行委員が来てどんなことをしたか話をしに来ることはある。また、成人式実行委員がきっかけで社会での活動にふみだす人もいる。

#### < 次回の会議について >

平成 25 年 8 月 5 日 (月) 午後 2 時 00 分から